

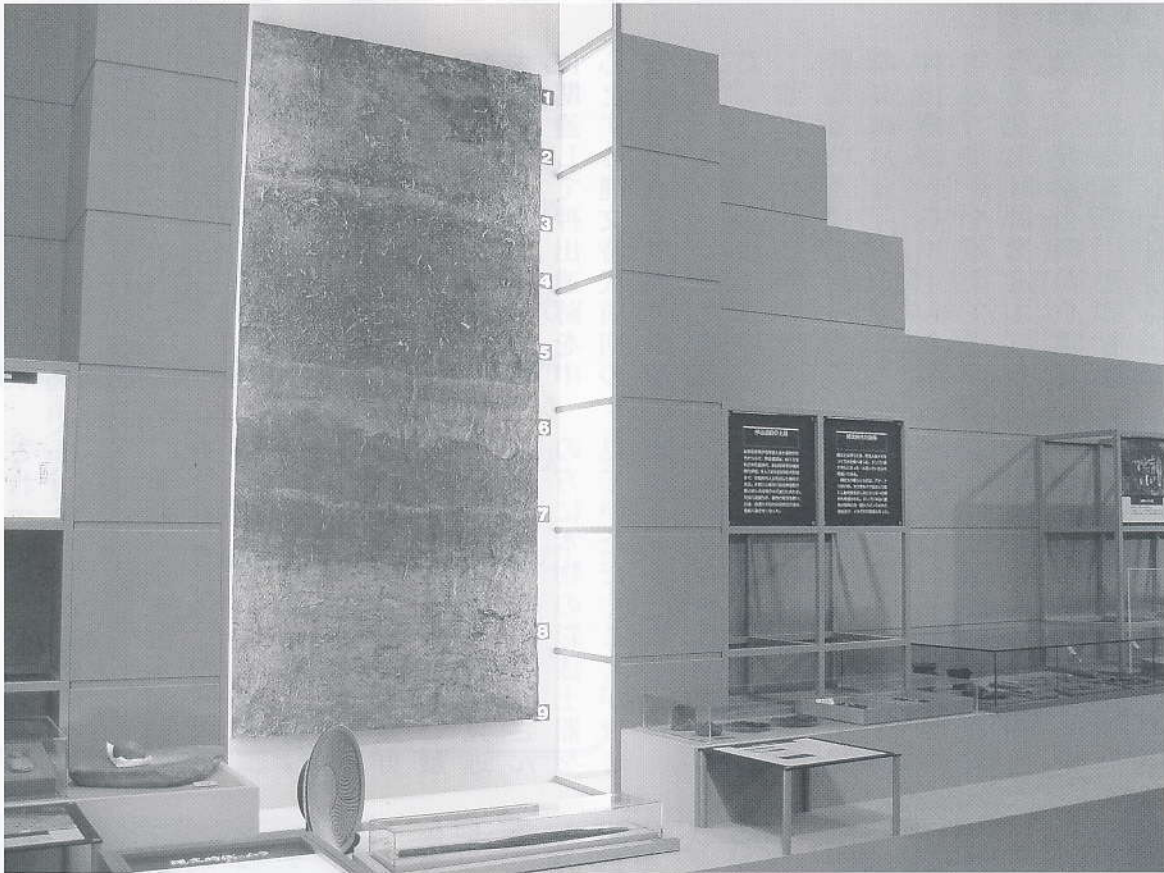
うきたむ

第34号

2010.01.15

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585
FAX 0238 - 52 - 4665



▲ 常設展示 押出遺跡堆積層の様子（8層が遺跡立地面）

県内には、約五千ヶ所を超える遺跡の分布が数えられる。それらは、地下に埋もれた埋蔵文化財という特性から、毎年数十ヶ所が土木工事等の開発事業に係り、文化財保護法に基づきその保存について協議が行われている。その場合、計画の見直しや工法変更等で現状保存が図られる場合を除き、遺跡を発掘調査して、その成果を記録として残す「記録保存のための発掘調査」が行われている。

平成五年度以降の国・県等の公共事業に係る発掘調査件数と調査面積（延べ）は、約三百三十件・百五十万平米である。その成果の建物跡や出土品などが、確認された情報として報告書にまとめられ、記録として保存が図られている。本館に常設展示されている「押出遺跡」や「お花山古墳」の出土文化財も開発事業に係り発掘された資料群のひとつである。

これまで遺跡は、地下に影響を及ぼす行為からいかに守るかということに、主に意が注がれ記録保存が図られてきた。遺跡保護の観点からも、記録保存目的の発掘調査が必要なことになりはしないが、これからは、調査成果や学術研究に積み上げられた考古体験学習や考古学講座など、活用の観点からの文化財保護への取り組みが一層求められると考えられる。本館で例年開催される「赤ちゃんの手形をつくろう」や「企画展」の開催時期に入館者数が大きく増加していることも、その必要性を示していると考えられる。今後もその取組みに、一層期待が高まっている。

遺跡発掘調査による保存と活用

山形県教育庁文化財保護推進課

名和 達朗

第17回企画展

「じょうもん天地人」

―やまがた前期縄文人のたごかい―

平成21年10月1日(木)～11月29日(日)

たくさんの方に見ていただきました



▲ 展示の様子

今年度は、日本考古学
二カ月にわたり展示を
行いました第17回企画展
「じょうもん天地人」や
まがた前期縄文人のたご
かい―も、十一月二九
日をもって無事閉展致し
ました。

協会の大大会が山形で開催
されたこともあり、それ
に関連して押出遺跡の中
心とする縄文時代前期の
資料を中心に早期・中期
の資料も展示いたしました。

当館の展示で縄文時代
前期といえば、押出遺跡
の資料が挙げられます。
押出遺跡から出土した遺
物は、千点を超えて国の
重要文化財に指定される
など、発掘当時から現在
にいたるまで、とても注
目されている遺跡です。
常設展示されている資料
はごく一部ですが、企画

展では重要文化財に指定
されているものをはじめ
め、たくさんの方の資料を展
示しました。



▲ 押出遺跡の土器

また、企画展示期間の中
でもさらに期間限定
で、本物の彩漆土器を二
年ぶりに展示しました。
二年前の「縄文の至宝・
押出遺跡」展で大変好
評でしたが、今回再び展
示したことで、前回見逃
した方をはじめたくさん
の方に本物の彩漆土器を
見ていただくことができ
ました。

編布 (アングイン) つくり開催

平成22年1月16日(土) 午前10時～12時

参加費 200円 小学3年生以上

当館では冬の体験講座として「編布つくり体験」
を毎年1月に開催しております。

所要時間約1時間でコースター程度の編布を作
ることができます。

展示では(剱山形県埋蔵
文化財センター)をはじめ
め、米沢市教育委員会、
長井市教育委員会、南陽
市教育委員会、高畠町教
育委員会の各機関よりご
協力いただき、貴重な資
料を借り受け、縄文時代
前期資料の充実を図りま
した。

展示では(剱山形県埋蔵
文化財センター)をはじめ
め、米沢市教育委員会、
長井市教育委員会、南陽
市教育委員会、高畠町教
育委員会の各機関よりご
協力いただき、貴重な資
料を借り受け、縄文時代
前期資料の充実を図りま
した。

大方(たいほう)遺跡
出土の石器を作る時に
出た大量の剥離片や、吹浦

遺跡の金魚鉢型土器の
数々など、普段目にする
ことのない資料が一堂
に集まり、縄文時代前期
を中心に、早期から中期
までの流れを、展示資料
を通して見ることででき
る、貴重な企画展となり
ました。

また展示を通して、気
候変動の時期を集住化に
よって切り抜け、環状集
落を発達させた前期縄文
人のたくましい営みを理
解していただけたよう
です。同時に押出遺跡の
つ意義を感じとっていた
だいたようです。

期間限定イベント

今年度の企画展では、
11月3日の文化の日にあ
わせ、クイズラリーを開
催しました。

常設展示と企画展示を
見ながら問題を解いてい
きます。全部で5問。少
し難しい問題もありまし
たが、老若男女問わず、
ご参加いただき、大変好
評を得ました。

企画展記念講演会 (11月15日)

東北芸術工科大学教授 安齋正人氏を迎えて

企画展期間中に、東北芸術工科大学教授安齋正人氏を迎えて記念講演会を行いました。

縄文時代の始まりの頃の、地球環境の変化のグラフからみていき、寒冷期や温暖期が繰り返し訪れ、その気候変動が縄文文化に与えた影響を、特にそれとたたかう縄文人の視点で理論的に解説いただきました。多少専門的な内容もありましたが、大勢の参加者にとつて、縄文時代前期を理解する上で、非常に興味深い内容だったのではないかと思います。



▲ 講演の様子

日本考古学協会山形大会を記念して

10月17日(土)～19日(月)に開かれた日本考古学協会山形大会では、第Ⅱ分科会で当館所蔵の押出遺跡出土品に関連した縄文時代前期の研究発表が行われました。

当館では全国各地からおいでいただいた方にもご理解いただけるように、押出遺跡をはじめやまがたの縄文時代前期の主要遺跡出土品を展示しました。

多数の研究者の方々から見ていただき、押出遺跡出土品の素晴らしい価値をご理解いただくと共に、当館の独自の展示方法にも好評をいただきました。

また展示図録も好評で多くの方からお求めいただきました。

テーマ展

「考古資料からみた古代・中世」

平成21年12月5日(土)

テーマ展「考古資料からみた古代・中世」を開展致しました。

常設展示室からの流れで、置賜の古墳時代以降中世までの資料を見ることができます。

見て時代の移り変わりも感じられるようになっていきます。

従来の展示をさらに工夫して新鮮味のある展示にしました。今回の展示では、部分

的に配置換えを行い、見やすくすると共に、資料を一部差し替えて内容を充実させました。

南原遺跡から出土した石製模造品や、寝鹿遺跡の坏などを新たに追加し、古墳時代中・後期の人々の暮らしをよりわかりやすくしました。

以前ご覧になった方も、この機会にぜひもう一度展示を見に当館まで足をお運び下さい。

燻蒸のお知らせ

平成22年3月中に展示室の燻蒸を行います。期間中は閉館になりますので、ご見学の際は資料館までお問い合わせ下さい。



▲ 追加した資料

文和三年阿弥陀板碑

南陽市漆山の個人墓地内に、県内

第二番目という高さを測る四・一二

メートルの巨大板碑があります。

凝灰岩製で、額の上に平行に二本の線があり、頭頂部は欠けています

が、置賜型板碑特有の形態を示しております。碑

面上部には阿弥陀如来の種字「キリク」と下部

に文和三年二月の紀年銘が刻まれています。

文和三年は南北朝時代の北朝の年号で、この地



▲ 見上げるほど大きな板碑

堅雪が割れて谷地に沈んでしまった」というものがあり、板碑に使われた石材の産地や運搬の方法などをうかがわせるような興味深い話となっています。

が北朝方の支配だったことがわかります。

大仏という地名からわかるように板碑は離れた場所からでも建っている

のがわかるほどで、近くによるとその大きさに圧倒され一見の価値はあります。

これだけ大きな板碑をどこからどのように運んだのか不思議なところですが、巨大な板碑にまつ

わる伝承に「この文和三年の板碑よりも、もっと

大きな板碑を高畠町の日向から運んだが、途中で

堅雪が割れて谷地に沈んでしまった」と

いうものがあり、板碑に使われた石材の産地や運搬の方法な

どをうかがわせるような興味深い話とな

っています。

南陽市にある月ノ木B遺跡は、大谷地に面した

「鳥上坂」と呼ばれる緩斜面にあります。

我が館の展示品 (23)

縄文土器・月ノ木B遺跡・縄文時代早期

国道13号米沢・南陽道路建設工事に伴い、昭和六二年から平成元年三月まで発掘調査が行われました。

月ノ木B遺跡の周辺には、大谷地を囲むように

たくさん遺跡の存在が知られています。

湖の現在の湖岸までは約三百メートルあり、当時

この場所で生活していた人々が、白竜湖を中心

とした大谷地と密接に結びついていて、ことをうかが

がわせます。

発掘調査の結果、土壙二基と溝跡一基などが見

つかり、縄文時代早期中葉から前期前葉にかけて

の土器片などの遺物が多く出土しています。

常設展示では、貝殻沈線文土器や条痕文土器片

を展示しています。

貝殻沈線文土器の破片には、二枚貝のような貝殻腹縁を利用して施したギザギザの紋様を見る

ことができます。白竜湖で獲れた貝を利用したので

でしょうか。それとも海で獲れた貝の殻を使ったの

でしょうか。

この貝殻文が最も施されるのは、縄文時代早期

で、東日本の多くの土器に見ることができ

ます。

これらの土器の貝殻文は主にアカガイやサルボウ

といった貝の殻を用いた

のではないかと考えられています。また早期末に

は、貝殻の放射状の筋を利用して引っ掻いて施

す、貝殻条痕文が日本の広い範囲に普及

します。

月ノ木B遺跡からは、それらの文様が施された

土器片が見つかっていま

す。

常設展示ではこの土器片ほかにも、日向洞窟遺

跡等にも見られる微隆起線文のついた土器片や、

たくさん石鏃などの石器を展示しています。

前後に縄文時代草創期の日向洞窟遺跡等の資料

や縄文時代前期の押出遺跡の資料が展示してある

ので見逃されがちですが、月ノ木B遺跡から出

土した資料は縄文時代早期の土器石器の特徴をよく

表すものです。



貝殻沈線文

▲ 常設展示の縄紋土器片